

4館イベント情報

役者絵の今昔展 = 幕末から現代 =

- 会期:9月13日(日)まで(会期中は無休)
- 会場:角館樺細工伝承館
- 開館時間:午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)



名取春仙
「茨木一渡辺綱」

今月は、好評開催中の「役者絵の今昔展」から、展示品の一つをご紹介します。この作品を描いたのは、名取春仙(なとりしゅんせん)という画家です。

春仙は明治19年(1886)山梨県に生まれ、平福百穂に日本画を、また洋画を福井江亭に学びました。大正初期から役者絵を描くようになり、昭和27年(1952)まで70種を越える大首絵を残し、昭和を代表する歌舞伎役者の姿を後世に伝えております。この作品は、茨木童子が鬼に変貌した瞬間、源頼光四天王の一人渡辺綱の緊迫した表情を見事にとらえた傑作です。役者は八世松本幸四郎、昭和26年の制作です。この作品を含む60点あまりの作品を展示しております。市民の皆様のご来館をお待ちしております。

■問合せ:角館樺細工伝承館 TEL(54)1700

男鹿和雄出版記念「秋田、遊びの風景」展

■会期:8月1日(土)～9月24日(木)
昨秋、大きな感動をもたらした「ジブリの絵職人・男鹿和雄展」から1年。この夏、男鹿さん初の絵入りエッセイ集が発行されます。そこには、男鹿さんの体験を通した原風景・いきいきした子供たちの姿があります。懐かしい時代を振り返るひとときを、市民の手によるまちづくり事業でつくりあげます。



■後援:仙北市、仙北市教育委員会、たざわこ芸術村、角館高校同窓会、仙北市商工会、角館町観光協会、NPOきたうら、NPO立町商店会、ルネッサンス・角館

- 主催:男鹿和雄出版記念「秋田、遊びの風景」展実行委員会
- 共催:新潮社記念文学館 あきた角館西宮家
- 協力:スタジオジブリ 徳間書店



<2点とも 男鹿和雄 絵>

新潮社記念文学館では実行委員会の趣旨に賛同し、共催として、額装・スケッチ等の展示、併せて昭和30年代の懐かしい写真の展示もおこないます。

第1会場 新潮社記念文学館:額装・スケッチ等20点以上ほか
第2会場 西宮家:男鹿和雄小品展ほか

■問合せ:男鹿和雄出版記念「秋田、遊びの風景」展 実行委員会 TEL(54)2033

仙北市民会館 8月行事のお知らせ

30日 第4回 仙北市伝統芸能フェスティバル 開場:12時30分 開演:13時～ 前売券 600円(当日1,000円)
ペア券 1,000円(当日1,500円)

この北浦地域に伝えられる民謡や踊り、太鼓演奏などの伝統芸能を集めたフェスティバルが開催されます。皆様たくさんのご入場をお待ちしています。

■問合せ:仙北市民会館 TEL(44)3143

小田野直武・佐竹義躬生誕260年記念企画展

- 会期:10月3日(土)～11月8日(日)
(会期中は無休)
- 会場:角館町平福記念美術館
- 開館時間:午前9時～午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)
- 入館料:大人300円 小人200円
*20名より団体割引有り
- 出品予定作品:秋田蘭画作品 約25点



佐々木原善
「名花十友図」

佐々木原善^{ほらぜん} 横手市松原の名家に生まれる。本名は善蔵。雅号は本名と地名から一字ずつとり、原善という。号は松峯山人、分水、楚宝、洛称原善などを用いた。のち横手市四日町に移り柏屋を名乗る。生没年不詳であるが、秋田蘭画のころに洋画を手がけた画家である。作品に寛政年中(1789-1801)の年記をもつものが数点知られる。生家は農業の旧家であったが、秋田藩の支城横手城の城代戸村義通^{よしたか}とその子義通^{よしみち}(戸村後草園)に抱えられ、その援助で安永末に江戸に出て、南蘋派(沈南蘋は中国出身の画家で長崎に來日し、写実的な花鳥画の画法を広め、南蘋派と呼ばれる絵画の一派が出来るほどの影響を与えた)の熊斐^{くまひ}(中国出身で、元禄の頃より長崎で、代々唐通事を勤めていた)の高弟・松林山人に師事する。師の没後、寛政6年ころ長崎へ行き熊斐の三男熊斐明^{くまひめい}につき、南蘋画や長崎蘭画を学んだ。長崎から秋田に帰ってから生業の農業についていたが、絵筆をもつ右手を痛めぬよう、左手を用いた伝説がある。帰郷してからは、後草園などに南蘋派の画法を伝えた。再び上京する途中、鴻巣^{こうのす}(埼玉)で享和文化^{きやうわぶんか}のころに客死^{きやくし}した。

■問合せ:角館町平福記念美術館 TEL(54)3888

※企画展開催中「現代ヨーロッパ絵画展 -エコール・ド・パリから抽象芸術まで-」

■会期:8月1日～9月27日(会期中無休)